

令和3年度 第1回八尾市公共下水道事業経営審議会議事概要

[開催日] 令和3年10月26日(火)

(1) 令和2年度決算報告について

○事務局(概要説明)

- ・令和2年度の決算状況について報告。
- ・投資財政計画との比較について報告。
- ・令和2年度の広報活動について報告。

○委員

- ・決算の概要や計画との比較において、どう評価するか。
- ・出前講座について、コロナ禍での取り組みの工夫はあったのか。

○事務局

- ・経営戦略と比べて、利益は増えているが、令和元年度、令和2年度の決算が、下水道使用料について伸びなかった。大口の使用水量が減って、一般家庭層が増えており、コロナの影響もあると考えられる。
- ・出前講座について、中止はせずに学校と事前にコロナ感染対策の打ち合わせを行い、生徒は間隔をあけて並んだ状態で実施した。遠足などの行事が中止になるなど、生徒にとっては何もイベントがない状況で、とても好評をいただいた。

○委員

- ・決算との比較で、他会計負担金の減収の理由を教えてください。

○事務局

- ・他会計負担金は支出の費用が減っている分、それに伴って一般会計の繰入が減った。
- ・無理にコストカットしているのではなく、必要なものには費用をかけて、平準化するよう努力をしている。

○委員

- ・支払利息、減価償却費が投資財政計画と大きな差がでているのはなぜか。

○事務局

- ・実際の借入時との利率の差と、新規事業を抑制した事により減少している。
- ・令和2年度は投資財政計画の見直し前の最終年となり、各項目での差が大きくなるが、令和3年度から見直し後の投資財政計画との比較になるので大きな差はなくなる。

○委員

- ・和歌山市の水管橋の落橋の件を踏まえて、点検費あるいは改築更新費から予定通りできているのかどうかを確認したい。

○事務局

- ・計画段階では、不測の事態に対応できる部分の予備費として、想定外の分も含めて費用を積んでいる。実際は計画通りの修繕及び改築更新ができていますので、遅れている、もしくは先延ばしにして不用額が出ているわけではない。

○委員

- ・日常管理の中で、点検等をきちんとやっていただくようお願いする。

(2) 経営評価について

○事務局

- ・経営評価について報告。汚水処理費は使用料で賄うのは大原則。そこは八尾市の場合はきっちり守って今後も経営していく。他市と比較しながら、市の状況が現在こういう状態という説明ができるように今後も研究検証を行っていく。

○委員

- ・今回は八尾市よりも経営状況が良好な市と比較することをお願いした。それでもまだ、事業内容や条件の違う相手と本当に比較していいのか、比較すべき相手なのかというのは、まだ勉強中である。

○委員

- ・経営分析で、カスタマーサービスという項目、何か顧客サービスに関わる指標も意識してはどうか。

○委員

- ・指標から原因の分析をするところがもう少しあればよいと思う。最後に3つぐらいに集約したコメントが入るといい。指標を他市と比較して出すと、一般の人にはわかりやすい。
- ・市の独自指標も、あまり厳密に考えずにやってみてもいいのでは。

○委員

- ・コストカットだけでなく、コストがかかることの説明が大事。
- ・最新の技術を下水道に使うことを、補助金等をもって積極的に取り組むといい。

○委員

- ・老朽化した下水道に関して、道路等の他の工事の段階で他系統部門との関わりはあるのか。

○事務局

- ・占有者会議というものが4半期毎にあり、水道、ガス、下水道、電気等が集まって工事の情報を共有してる場がある。そこで、下水道の方が老朽化で直すべき管があるならば、相乗りしている。

○委員

- ・現状を八尾市の事業として、見える化、数値化は、何かしら必要。八尾市として、この目標値は必要で、この値に設定すべき、ここの値は維持すべきというのを決めていくといい。
- ・ただし経年変化で事故が起こった、改修工事をたくさんした等の事象があると、指標が大きく悪くなったり良くなったりするので、留意が必要。